

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価 (3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の学習意欲を高める教育課程を実施する。  ②すべての教科等において、学び直しや生徒が互いに学び合う学習活動を取り入れるなど、知識・技能の習得のみならず、それらを活用する力を育む魅力ある授業を展開する。	①教育課程に沿った目標設定及び指導と評価を通して、自己肯定感を高める授業の研究を行う。  ②ICT ツールの積極的な活用によって知識・技能の習得を支援するとともに、他者との協働による学びを意識しながら自己肯定感を高められる授業を実践する。	①各教科での昨年度の成果を踏まえ、単元ごとの目標設定及び指導と評価の研究をさらに進める。  ②ICT を活用した授業を積極的に実践し、その成果や課題について教科を越えた情報共有を行う。また、ICT の活用によって他者とのつながりを意識させ、協働して学ぶ姿勢を育成する。	①生徒による授業評価において、自身の学習状況についての項目で肯定的回答を多く得られている。  ②毎年多様な生徒を迎える中で、生徒による授業評価における「できるようになったと実感」の項目、「関連付けて考える」の項目において、肯定的評価80%を維持できたか。	①前期授業評価において、すべての項目における肯定的評価は79%、自身の学習状況についての項目では肯定的な回答が77%超であり、各教科の目標に沿った、適切な指導と評価ができています。 ②前期授業評価のICTに関する項目では79%が活用できているという評価であり、他者との協働的な学びに関する項目では76%が肯定的な回答であった。	①後期に向けて引き続き研究を進め、より改善された授業の実践する必要がある。 ②前期授業評価の意見・感想欄には、「難しく追いつけない」「もっとパソコン・スマホを使いたい」という記述も散見される。ICTの活用をはかりながら、理解できた、できるようになったと実感できる授業展開につなげる必要がある。	①生徒に合わせて分かりやすい授業を行っている。中学時代からの成長・変化が大きい。  ②授業評価の内容を確認した。自分の意見を出せることが大事。学校生活で「できる」ことを増やし、自己肯定感を高める授業を継続してほしい。	①後期授業評価で肯定的評価の総合値が74%と7割を超えた点は評価できるが、前期より下がった点は懸念材料である。 ②ICT に関しても活用できたという評価は64%と下がったが、後期の電子黒板導入による授業展開の変化で、個人端末活用の印象が薄らいた影響と分析している。一方、他者との協働的な学びや自己肯定感に関する項目では80%を達成できず、課題を残した。	①前期の成果を後期に生かし切れなかった点を踏まえ、1年間というスパンにおける生徒の学習意欲の変化を把握しながら目標設定及び指導と評価の改善に努め、自己肯定感を高める授業の展開を図る。 ②できるようになったという実感を、いかに他者との協働的な学びに結び付けて向上させるかが大きな課題であり、そのために教科を超えた情報の共有や電子黒板等のICT 機器の活用をさらに図る。
2	生徒指導・支援	①生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。  ②生徒ひとり一人の抱える課題を把握し、組織的な支援を行う。	①生徒との信頼関係を構築し、ルールやマナーを尊重する態度を身に付けさせ、予防的な生活指導体制を充実させる。  ②個々の生徒の実態に即した組織的な教育相談体制を構築し、支援を充実させる。	①授業中の巡回指導を全職員体制で行うとともに、地域からの情報に誠実に対応し、生徒の社会性を高める指導を行う。 ②家庭との連携を密にし、社会性診断テスト「SERAPLUS アンケート」等も活用して生徒の実態把握に努め、外部機関とも連携して教育相談体制を充実させる。サポートドックをより効果的に運用する。	①学校周辺を含めた生活指導に関する巡回指導や各行事等における指導において、全職員体制で充実した取組を行うことができたか。 ②職員間で生徒支援上の情報共有を行い、個々の生徒の実態に応じた生徒支援を行うことができたか。サポートドックを効果的に運用できたか。	①全職員による授業中の巡回指導を行っており、落ち着いて学校生活を送れる雰囲気になった。地域からの情報に基づき、生活指導を充実させた。 ②社会性診断テスト「SERAPLUS アンケート」や「サポートドック事業」を通して生徒の実態把握に努めた。課題を抱える生徒に対してはSC やSSW とも連携して対応にあたった。	①交通事故や生活の乱れが見られる生徒もいるため、交通安全に対する意識や規範意識の更なる育成が課題である。 ②年2回実施している教科担当者会議において、全職員で生徒情報の共有を行っている。この取組を継続し、生徒情報の共有を密に行い、丁寧な生徒支援を行いたい。	①信頼関係があると指導も浸透する。継続的な声掛け・支援をお願いしたい。 ②外部相談機関の立場から、若者のエネルギーが低下していることを感じる。不登校の時の働きかけが大切。生徒本人やその背景にある事情を理解し、適切な対応を行ってほしい。中学生が通信制を選ぶ傾向があるが、定時制の魅力伝えてほしい。	①全職員での巡回指導により、落ち着いて授業に取り組める環境となった。生徒との信頼関係構築を基盤に、ルールやマナーを尊重する態度の育成を図る。 ②SC やSSW との連携を継続するとともに、校内での情報共有を図り、全職員で生徒理解を深めることで、個々の生徒に応じた支援体制の一層の充実を図る。併せて、サポートドックや社会性診断テスト「SERAPLUS アンケート」の有効活用を進める。	①生徒との信頼関係構築を基盤に予防的な生活指導を継続し、地域の中学生の模範となるよう、ルールやマナーを尊重する態度の育成を図る。 ②SC やSSW との連携を継続するとともに、校内での情報共有を図り、全職員で生徒理解を深めることで、個々の生徒に応じた支援体制の一層の充実を図る。併せて、サポートドックや社会性診断テスト「SERAPLUS アンケート」の有効活用を進める。
3	進路指導・支援	①豊かな人間性や社会性を培い、社会的・職業的に自立する能力を育成する。  ②進路希望の実現に向けたきめ細かい指導を行う。	①社会的・職業的に自立することを目的に、学校行事や部活動等を充実させ自己肯定感を育む教育を展開する。  ②個々の生徒の適性を的確に把握し、一人ひとりの適性に合った進路指導を行う。	①学校行事については生徒会本部役員の生徒を中心に、生徒主体の行事運営ができるように指導する。部活動については部活動紹介等を通して、課外活動の楽しさ等を伝えていく。 ②入学年次から進路希望調査を行い、早い段階から生徒の進路希望や適性を把握し、より効果的な働きかけを行う。	①学校行事を生徒主体となって運営することができたか。部活動の加入率が昨年度よりも上昇したか。 ②卒業年次については、進路希望が実現できたか。在校生については進路希望調査や面談等を通して、進路希望を把握し、次年度に繋がるような指導ができたか。	①5月の体育祭、11月の文化祭に向けて、生徒会本部役員の生徒が主体となって学校行事を運営できる体制となっている。部活動加入率も一昨年度26%、昨年度38%、今年度49%と年々増加している。 ②小田原城北工業高校と合同の「キャリア教育講演会」や、前期中3回の進路説明会を行い、生徒の進路決定に活かした。	①生徒会行事や部活動の活性化に伴い、計画的に物品購入等を行い、生徒の活動環境を整える必要がある。 ②卒業年次の生徒については、希望の進路実現ができるよう、職員間でも連携して進路指導を行っており、年度末に向けて、全ての卒業予定者の進路実現が図れるよう、今後も継続的に指導を続ける。	①文化祭の様子を確認した。学校で他者と交流ができる定時制の良さを感じる。  ②生徒が自身の適性を知って前向きに取り組めるよう、多くの情報提供と丁寧な支援体制をお願いしたい。	①部活動加入率が向上し、学校行事も生徒主体の運営体制が整ってきた。今後も行事等を通して他者との交流を深め、豊かな人間性や社会性を育み、自立に向けた資質・能力の育成を図る。 ②早期からキャリア教育に取り組み、生徒一人ひとりの進路希望の実現に向けてきめ細かい指導を行う。また、卒業生の増加に対応し、全職員による組織的な進路支援体制の強化を図る。	①生徒主体の学校行事や部活動の一層の充実を図り、これらの活動を通して他者との交流を深めるとともに、豊かな人間性や社会性、仲間意識を育み、自立に向けた資質・能力の育成を図る。 ②早期からキャリア教育に取り組み、生徒一人ひとりの進路希望の実現に向けてきめ細かい指導を行う。また、卒業生の増加に対応し、全職員による組織的な進路支援体制の強化を図る。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<p>①地域等との協働を通して、地域に開かれ、地域と共にある学校づくりを進める。</p> <p>②地域や保護者、中学生等に向けて、積極的な情報発信・広報活動を行う。</p>	<p>①地域等との連携・協働を通して、地域とともにある学校づくりをより推進する。</p> <p>②各種学校説明会への参加やHPを通じて情報発信を行うとともに、特に来校による見学・相談会、オープンスクールや随時の見学・相談会等の来校による体験を通じて本校の特色について十分な理解を促す。</p>	<p>①学校行事等については事前に地元自治会と情報共有を行い、学校周辺の清掃活動については地域との協働により実施する。県西地区若者サポートステーション等とも連携し就労支援を行う。</p> <p>②本校のHP等の情報発信や各種学校説明会への参加によって、本校のオープンスクールや随時の見学・相談会等の来校につなげ、本校の特色を実感する機会を提供する。</p>	<p>①清掃活動では地域との協働で実施することができたか。地域の就労支援施設と連携することができたか。</p> <p>②より多くの中学生や保護者、その他本校に関心を抱く方々が本校に見学や相談に訪れる機会を利用してもらったか。</p>	<p>①7月の地域清掃では城山中学校と地域自治会にも参加を呼びかけ、多くの中学生が参加した。本校生徒の参加率も昨年度より上昇し84%だった。中学生と一緒に地域を綺麗にすることができた。</p> <p>②県西地区合同説明会や公私合同説明・相談会等への参加、HP等での情報発信、夏季の中学校訪問やオープンスクール・鼻森祭(文化祭)の案内送付による広報活動を実施し、来校による見学や相談を呼びかけた。特に案内送付の範囲を前年度までの県西地域から平塚・秦野・伊勢原・中郡にまで広げ、その成果を待っている状況である。</p>	<p>①地元の保育園のインターンシップや夏祭りのボランティアに参加する生徒もいたが、今後も地域の就労支援施設とさらなる連携を図りたい。</p> <p>②案内送付の範囲拡大が、より多くの見学・相談者の来校につながっているかを評価しながら、さらに本校の特色を発信し理解していただくよう努力する必要がある。</p>	<p>①地域清掃では高校生と触れ合うことができ、通学路の美化はイベントではなく、日常にしていきたい。避難訓練については現実に即した準備が必要。災害時に地域に力を貸す訓練はあるのか。</p> <p>②小さなことでも生徒の取組みを地域に紹介してほしい。保護者や地域からの理解を得るために機会あるごとに学校の状況や方策の発信をしてほしい。中学生や保護者には課程ごとの特徴を知る機会が少ない。定時制の良さ、通信制との違いなどをもっと発信してほしい。</p>	<p>①インターンシップやボランティアへの参加が増えた他、城山中学校との地域清掃も継続し、地域との繋がりを深めることができた。地域住民との協働の機会を充実させ、地域に開かれた学校づくりを一層推進する必要がある。</p> <p>②これまであまりなかった平塚・秦野地区からの問い合わせや見学等があったことは、案内送付の範囲拡大の成果と考えられる一方、夜間定時制という点に鑑み、通学可能範囲を意識した情報提供やきめ細やかな対応が必要である。</p>	<p>①城山中学校や地元自治会との地域清掃を継続し、地域との交流と連携を一層深めながら、生徒の地域社会への理解と地域の一員としての自覚を育み、地域とともにある学校づくりを推進していく。</p> <p>②案内送付の範囲拡大にあわせ、平塚・秦野地区等、遠方からの夜間における通学条件等について情報を収集し、問い合わせや見学・進学相談等の段階からきめ細やかな対応を行う。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①生徒の安心・安全が確保された学校づくりを進める。</p> <p>②事故・不祥事防止を徹底し、信頼される学校づくりを進める。</p>	<p>①防災教育の充実を図るとともに、防災備品の点検等を行い、ソフト・ハード両面において災害に備え、生徒の安全、安心を確保する。</p> <p>②不祥事防止研修会等を通じて、事故・不祥事ゼロを目指すとともに、働き方改革の加速化のために、業務を改善する。</p>	<p>①夜間における停電を想定した実践的な防災訓練を行い、生徒の防災意識を高めるとともに、発災時の職員の対応方法も確認し、生徒職員一丸となって災害に備える。</p> <p>②職員会議に併せて、不祥事防止研修会を開催する。また、朝の打ち合わせの場などを活用し業務改善の提案や、事故・不祥事防止に向けた呼びかけを行う。</p>	<p>①防災訓練後、アンケートを実施し[実践的であった]の回答が80%を超えたか。発災時の対応について生徒・職員間で共有できたか。</p> <p>②職員会議に併せて、不祥事防止研修会を開催できたか。また、その内容を職員の意識向上に繋げることができ、事故・不祥事ゼロを達成できたか。働き方改革の取組みで業務改善が進み、ストレスチェックの総合結果を昨年度よりも向上させられたか。</p>	<p>①5月の防災訓練では地震を想定した訓練を実施し、シェイクアウトの手順や避難経路等、基本的なことを確認した。また8月には1年次を対象にDIG訓練を行い、災害に備えるための複合的な資質・能力を養うことができた。</p> <p>②これまで、職員会議に併せて不祥事防止研修会を5回実施。朝の打ち合わせ等でも、不祥事防止にかかる注意喚起を行い、職員の意識向上を図った。働き方改革については、引き続き、時間外労働時間45時間以上となる職員を出すことなく業務を進められている。ストレスチェックの総合結果も向上している。</p>	<p>①後期の防災訓練では、火災発生後に停電が発生するという複合災害を想定した実践的な訓練を行い、生徒の防災力を高めたい。また引き続き、不足している防災資機材等の整備を進め、災害に備える必要がある。</p> <p>②事故・不祥事防止については、引き続き、気を緩めることなく粘り強く呼びかけ、年間を通じて事故・不祥事ゼロの達成を目指す。働き方改革については、引き続き、時間外労働時間45時間以上となる職員を出すことなく取り組むとともに、より一層、効率的に業務が進められるよう改善を図っていく</p>	<p>①防災について全職員が情報を共有して、夜間の避難行動についても対策を取っている様子が分かった。</p> <p>②通信システムを使った連絡方法など、保護者も使いやすい。先生方が余裕をもって生徒に寄り添ってほしいので、働き方改革推進について保護者も協力したい。</p>	<p>①複合災害を想定した訓練により、生徒・職員共に防災意識と実践力の向上が図られた。またセンサーライトの増設を行い、ハード面の整備も進めた。一方で、停電時の連絡体制に課題があり、今後の改善が必要である。</p> <p>②毎月の不祥事防止研修会などを通して職員一人ひとりの危機意識を高め、重大な事故・不祥事未然に防ぐことができた。また、働き方改革では、時間外労働45時間以上の職員を出すことなく勤務時間の適正化を図ることができた。今後は、業務の精選やICTの活用を一層、進め、より良い働き方を確立していく。</p>	<p>①老朽化した防災資機材の更新など、ハード面の整備を引き続き進める。また、停電発生時における連絡体制の改善を図り、円滑な情報伝達が行える体制の整備を進めていく必要がある。</p> <p>②事故・不祥事については、引き続き適切な時期に適切なテーマで研修会を開催し、職員一人ひとりの危機意識をさらに喚起できるよう取り組む。また、働き方改革については、時間外労働45時間以上を留まらず、校務のDXを推進し、非効率な業務を見直し、より一層、働きやすい職場づくりを実践する。</p>

